

# 国際交流基金助成事業報告

薬学科 4年次生 中川 あや

## 1. はじめに

私は国際交流基金の助成を受け、8月18日から27日まで行われたバンクーバーサマープログラムに参加いたしました。このプログラムでは、午前は語学学校に通い、午後は様々な施設の見学や、現地で働く様々な医療関係者からお話を聞かせていただきました。また、土日は観光に行ったりしました。滞在中はホームステイをさせていただきました。

## 2. 語学学校

Vancouver International College(VIC)という、バンクーバーのダウンタウンにある学校に通いました。一緒に参加した11人の大薬生と1人のVICの先生とで授業が行われました。「この学校にいる間は英語しか使ってはいけない」というルールがありました。始めは日本語でしゃべることもありましたが、だんだんみんなが日本人同士でも英語でしゃべるようになっていい環境だと思いました。毎日学校に行くのが楽しみでした。授業では、医療英語を習いました。例えば、痛みの種類などです。ちくちく突き刺すような痛みから、火傷をしたときのようなヒリヒリした痛みなどの伝え方などを教えていただきました。



VICにて先生と一緒に記念撮影



ランチはキッチンカーで買ったホットドッグ

## 3. 施設訪問

訪問した病院は、バンクーバーダウンタウンの中で一番大きいものでした。薬剤部を見学させていただきましたが、案内板などがなく、部屋の前にも薬剤部とわかる表記はありませんでした。なぜなら、場所がわかると薬を盗まれる可能性があるからだそうです。日本では考えられない理由だと思いました。他にも違いはたくさんありました。カナダには、テクニシャンという人がいてその人が調剤をしていました。この病院では、65人のテクニシャンと35人の薬剤師が働いています。テクニシャンは約1年、テクニシャンの学校に通ってなれるそうです。また、輸液専門のテクニシャンの人もいました。薬剤師は処方監査や病棟でのカウンセリングなどを行います。重篤な患者が多いので一包化はしない

そうです。

カナダでは、アルコールや薬物の依存症の人が多く、さらに貧困も大きな社会問題だそうです。リハビリ施設はその人たちのために作られており、社会で生活していけるようにするための施設です。まず案内していただいたのは、大きな食堂でした。そこには、毎朝 100 人もの方が朝食を求めて来ます。そこで出される朝食は無償で、有名なレストラン出身のシェフが考えたおいしいご飯です。この施設は教会が建てた施設で、寄付によって成り立っている施設だそうです。毎年寄付は 1500 万ドルも集まるそうです。貧乏な人だからと言って粗末な食事を与えたりせず、しっかりした食事を提供しているという奉仕の精神でした。また、“**Helping without hurting**” という事も仰っていました。「傷つけずに助ける」というのは、立場によっては難しいことですが、そこまで気遣っておられてすごいなと思いました。



見学した St. Paul's Hospital

#### 4. ホームステイについて

私は、バンクーバーの隣町にあるバーナービーというところでホームステイさせていただきました。住宅街が広がり、大きな公園のそばのおうちでした。ホストマザーの Maria はイタリア人で 70 歳くらいのおばあちゃんでした。彼女が作る料理は、とてもおいしく最高でした。彼女はイタリア語なまりの英語を話すので少し聞き取りづらかったですが、一週間もすると慣れてきました。一週間しかいなかったもので、慣れたころに帰るのが悲しかったです。カナダは移民の国です。一緒にこのプログラムでホームステイしていた子も、様々な国の人の家にホームステイしていました。みんなが持ってくるお昼ごはんを見るのがすごく楽しかったです。一つ後悔したのは、私は学校が終わってから毎日いろんなところに観光に行っていたので、帰ってくる頃には Maria の夕食は終わっていて、一緒にご飯を食べることがなかったことです。(彼女は 16 時に食べる！早い！) それでもいつも夜ごはんの時は、一緒に話す時間がありました。今度ホームステイする機会があれば家にいる時間をもっと増やしたいなと思いました。Maria の孫や娘さんの写真を見せてもらいました。週に何回も娘さんや息子さんやその家族が訪ねてきていて、いつも幸せそうでした。



いつも家の前にいたイリーナ

## 5. 観光

カナダはとても自然が豊かでした。キャピラノつり橋やスタンレーパークや植物園など様々な場所に行きました。

## 6. おわりに

初めて海外で暮らしてみて、毎日がとても刺激的で楽しかったです。一週間という期間はとても短く1ヶ月くらい滞在したかったなと思いました。英語ももつともつとしゃべれるようになりたいと強く実感しました。また、カナダは独自の文化というよりも移民の国なので、それぞれの文化がありみんなが違うことが普通という感じでした。日本とは全く違う寛大な雰囲気に触れられたのもこの一週間で得られたものです。旅行とは違い、留学は学びが多く、私の人生に刺激を与えてくれました。迷っている方がいたら、迷わず行かれることを勧めます。今回このようなプログラムを企画していただき、援助のもと行かせていただいたこと、ありがとうございました。



スタンレーパークから見える景色

(サイクリングが最高に気持ちいい)



石畳が広がる Gastown

(おしゃれなレストランがいっぱいあります！大好き！)